

# 小型衛星「まいど1号」に雷センサー搭載

## 日本一の遠隔無線装置メーカーへ

株式会社 大日電子

町工場の技術が結集した小型人工衛星「まいど1号」が宇宙に飛び立って1年半。不況で企業の経営環境がますます厳しくなるなか、まいど1号の成功は、全国の中小企業に夢と元気を与えた。

ある調査によると、全国で2人に1人、地元大阪では7割の人がまいど1号を知っているという。「ものづくりの町・東大阪」の知名度を上げたと同時に、なによりもその技術力と前向きな姿勢が評価された。またプロジェクトに参加した学生が組合企業に就職するなど、東大阪は若者が集まる町へと変わりつつある。

宇宙開発については素人同然だった中小企業の集団が、困難を乗り越えて夢を実現できた背景には、技術者たちのものづくりにかける意地とプライドがあった。

### マスコミに注目され、社員がより前向きに

「まいど1号」は、大阪の中小企業からなる「東大阪宇宙開発協同組合」が主体となり、JAXA（宇宙航空研究開発機構）と大学の協力を得て完成した。2009年1月23日に打ち

上げられ、同年10月9カ月間の運用を終了。8年越しの取り組みが実り、すべての実験が成功した。

主なミッションは、世界初の衛星からの雷観測データ受信。その雷センサーを担当したのが、大阪府吹田市の通信機器メーカー「大日電子」だ。同社はこのプロジェクトでアマチュア無線送受信機も担当。また、代表取締役の杵本日出夫（すぎもと ひでお）氏は同組合の理事長も務めている。

「まいど1号は東大阪の中小企業が衰退していくなか、なんとか盛り上げよう、街を活性化させようという思いでスタートした。当初は技術力が上がればと参加したが、なかなか成



代表取締役・杵本日出夫氏。1953年、佐賀県伊万里市生まれ。兵庫県立武庫工業高等学校電気科卒業。1981年27歳で大日電子を創立。2002年3月NASDA第2回宇宙ベンチャー大賞を受賞。2008年「大阪ものづくり優良企業賞2008」を受賞。2003～2009年まいど1号の開発に参加、ミッション大成功。2009年「元気なモノ作り中小企業300社」に採択。同年6月東大阪宇宙開発協同組合の理事長に就任。

果が上がらず、2500万円の赤字を出したこともある。しかし、途中で諦めたのは技術者の意地と、小学校の社会科の副読本に掲載されたから。子供と約束した